

現場のアイデアを形に！

一般ユーザーが自分たちで開発したアプリ事例

プロアクシアコンサルティング株式会社

Agenda

今回ご紹介する事例

事例 其の壱 IT関連申請アプリ

- アプリ概要：アカウント発行等のIT部門への諸申請をアプリ化！
- きっかけ：IT部門内の業務効率化プロジェクト
- 作った人：アプリ開発未経験者
- 作成日数：3カ月(実工数は1月ほど)

事例 其の弐 営業報告アプリ

- アプリ概要：日々の営業活動をスマホから入力可能に！
- きっかけ：現場ユーザーのアイデア
- 作った人：アプリ開発未経験者
- 作成日数：延べ1カ月～2カ月

事例 其の壱 IT関連申請アプリ

事例 其の壱 IT関連申請アプリ

【ストーリー 1/2】

多種多様なものがある、IT部門への申請事項。

元々、紙ベースの申請だったが、いつしかPDFファイルを添付したメールでの申請を許可したことから、

- 担当者以外にメールが飛んでくる
- メールで申請の際に要件をメールに直接書き込んでくる(PDF化した用紙の添付がない)
- 紙とメールが入り混じってしまい管理のためにPDF化が必要
- 過去の申請の確認が大変
- 進行状況問合せのメール、電話対応に時間を取られる

等などの問題を抱えていました。



事例 其の壱 IT関連申請アプリ

【ストーリー 2/2】

いつか電子化したいと考えていたものの、一つ一つは小さな案件であるため予算もつきにくく、情シス部門としても他の優先案件のため内製も難しい状況が続いていました。

そんな時にPower Appsの噂を耳にした今回の開発者様は、
「Power Appsなら自分達でつくってしまえるかも？」
と考え、丁度実施されていた業務効率化プロジェクトの一環として、チャレンジが始まりました。

さて、結果は・・・



事例 其の壱 IT関連申請アプリ

【Result 1/2】

独学で開始し、簡単なアプリはすぐに作れるように。

しかし、ワークフロー(承認システム)の仕組みを実装しようとしたところで問題が発生します。

ワークフローは様々な考慮点が発生するため、一筋縄ではいきません。
その上、複数の申請を一つのアプリに
組み込もうとしたため、收拾がつかなく
なってきたてしまいました・・・。



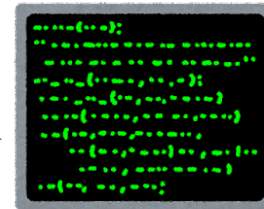
事例 其の壱 IT関連申請アプリ

【Result 2/3】

暗礁に乗り上げてしまい、自分だけでの解決は難しいと考えた開発者様は、情報システム部門へ相談。

すると、こんなアドバイスが・・・

- ワークフローは、Power Appsだけで作ると大変なのでPower Automateを使いましょう
- 一度にすべてを実装しようとはせず、1つずつ作っていきましょう



事例 其の壱 IT関連申請アプリ

【Result 3/3】

アドバイスを基に、Power Apps と Power Automateを組み合わせてアプリを作成。

するとあれだけ苦戦していたワークフローが簡単に実装できてしまいました。

複雑だったアプリも整理を重ねて無事に完成。

専属案件ではないため、期間としては3カ月程かかりましたが、無事に実装を終え、IT部門への申請アプリとして活躍中です。



事例 其の壱 IT関連申請アプリ

【ふりかえり】

- 何は無くとも、思い立ったが吉日。まずはチャレンジを！
- 困ったこと

- Power Appsだけでワークフローの実装は難しい
- 複数の申請を機能を同時に作成してしまってパニック



- ワークフローはPower Automateで
- 1つ1つの機能を順番につくりあげていきましょう



事例 其の弐 営業報告アプリ

事例 其の弐 営業報告アプリ

【ストーリー 1/2】

コロナ禍の最中とはいえ営業活動は足で稼ぐのが基本。

そしてこの世の中、情報の共有は早さが命です。

そうなる必然的に欲しくなるのが外出先からの情報共有。
つまりはモバイルデバイスからの業務報告です。

とは言えモバイルアプリの導入は、セキュリティの問題や導入・維持コスト等、敷居が高く...



事例 其の弐 営業報告アプリ

【ストーリー 2/2】

そんな時に耳にしたのがPower Appsの存在。

実はこの開発者様、以前からPower Automateをご利用になっていたのですが、画面を作成できないことに不満をお持ちでした。

でもPower Appsなら画面も作れてスマホでも動くとのこと。



ということは情報の共有を、時間や場所を問わずにやれるのでは？
熱い思いと共に業務時間をやりくりしての開発が始まりました。
さて、その結果は……？

事例 其の弐 営業報告アプリ

【Result 1/2】

熱い思いで走りだした開発者様、独学で Web上の情報を読み漁って少しずつ問題を解決していきます。

周囲の人々も興味を持ってくれて、色々なアイデアや要望を伝えてくれるようになりました。

でも、「あれもやりたい！」「これもやりたい！」と、どんどんアイデアが増えていって、中々終わりが見えません。

困った開発者様が情シス部門に相談してみると…



事例 其の弐 営業報告アプリ

【Result 2/2】

すると、情シス部門からはこんなアドバイスが。

- 現場の方のご意見はありがたいですね。でも、ゴールを動かすのはやめましょう。
- まずは最初の目標目指して作りきりましょう。機能を増やすのはそのあとで。



まずはスモールスタート。最初に立ち戻って一旦機能を絞って開発することで、無事にアプリを完成させることが出来ました。

これからも機能を増やしつつ、ますますの活躍が期待されます。



事例 其の弐 営業報告アプリ

【ふりかえり】

- 現場の方の熱い思いとアイデア、とても大事です。熱が冷めないように、サポートしてあげることがDXや市民開発の成功への道ではないでしょうか
- こまったこと

• 要望がたくさん出てきて止まらない

• ゴールは動かさない！
まずは最小限の機能でスタート
• アプリ開発は作ったら終わりではありません
現場のアイデアを吸い上げてさらなる進化を目指してください



まとめ

まとめ

情報システム部のメンバーの方はもちろん、現場の方々も業務改善に繋がる色んなアイデアや思いをお持ちです。

そんな思いを眠らせてしまうのはもったいない！

ということで、殆どのM365のライセンスがあれば無料で始められるPower Platformを使った開発を始めてみませんか？

業務効率化はもちろん、古いセキュリティポリシーの見直しのきっかけづくりや、働き方の多様性への対応など、きっと御社の成長にプラスαが見込めると思います



ご清聴ありがとうございました